

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	東海工業ミシン株式会社 新工場		階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県春日井市牛山町字気正17		構造	S造
用途地域	市街化調整区域		平均居住人員	15人
気候区分	6地域		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所工場		評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2019年4月	予定	評価の実施日	2018年10月14日
敷地面積	7,163 m ²		作成者	牧野 梨華
建築面積	2,523 m ²		確認日	2018年10月14日
延床面積	4,028 m ²		確認者	牧野 梨華



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	93%
③上記+②以外の	93%
④上記+	93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 2.8	Q2のスコア = 3.1	Q3のスコア = 2.5
音環境: 2.7, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 2.6, 空気質環境: 3.1	機能性: 2.8, 耐用性: 3.1, 対応性: 3.6	生物環境: 2.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.0	LR2のスコア = 3.6	LR3のスコア = 3.0
建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 2.6, 効率的: 3.0	水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.6, 汚染物質: 3.6	地球温暖化: 3.2, 地域環境: 2.9, 周辺環境: 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>32.4 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														2.8	
Q1 室内環境														2.8	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														2.7	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														1.8	
2 界壁遮音性能														1.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														4.0	
床・天井の二面に吸音材を使用														0.20	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														0.50	
2 外皮性能														3.0	
3 ソーン別制御性														0.38	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														0.20	
3.0 0.30														-	
3 光・視環境														2.6	
3.1 昼光利用														1.8	
1 昼光率														0.30	
2 方位別開口														1.0	
3 昼光利用設備														0.60	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														0.40	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														1.00	
3.0 0.15														-	
3.0 0.25														-	
4 空気質環境														3.1	
4.1 発生源対策														3.1	
1 化学汚染物質														0.25	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														0.50	
2 自然換気性能														1.00	
3 取り入れ外気への配慮														0.30	
4.3 運用管理														3.3	
1 CO ₂ の監視														0.30	
2 喫煙の制御														0.33	
3.0 0.33														-	
3.0 0.20														-	
3.0 0.50														-	
3.0 0.50														-	
Q2 サービス性能														3.1	
1 機能性														2.8	
1.1 機能性・使いやすさ														0.30	
1 広さ・収納性														0.40	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														0.50	
1.2 心理性・快適性														3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														0.30	
2 リフレッシュスペース														0.33	
3 内装計画														1.0	
1.3 維持管理														0.33	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														0.30	
3.0 0.50														-	
2 耐用性・信頼性														3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.31	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														0.31	
2 免震・制震・制振性能														0.48	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														0.80	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														0.20	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.7	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														0.33	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														0.23	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														0.23	
2 給排水・衛生設備														5.0	
3 電気設備														0.23	
4 機械・配管支持方法														0.09	
5 通信・情報設備														3.0	
0.08														-	
5.0 0.15														-	
3.0 0.23														-	
2.6 0.19														-	
3.0 0.20														-	
2.0 0.20														-	
3.0 0.20														-	
2.0 0.20														-	

3 対応性・更新性				3.5	0.29			-	3.5
3.1 空間のゆとり				2.8	0.31			-	
1 階高のゆとり				2.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.10	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			荷重のゆとり 4500N/㎡以上	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性		②		3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37			-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー									3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.68	5.0	0.09			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.26			-	3.0
3 設備システムの高効率化				2.6	0.39			-	2.6
4 効率的運用				3.0	0.26			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル									3.6
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63			-	3.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	長尺塩ビシート、複層ビニル床タイル	4.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロア使用	5.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材の不採用	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境									3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率93%	3.2	0.33			-	3.2
2 地域環境への配慮				2.9	0.33			-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			評価する取り組み表の評価ポイントが3ポイント	4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

東海工業マシン株式会社 新工場 新築工事

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:32.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	事務室の開口部を広くとり、十分な自然換気性能を有している。 また、発泡剤を用いた断熱を使用していないことにより、環境に配慮した設計となっている
Q1 室内環境	事務室の自然換気有効開口面積が室面積の1/30以上を確保している 床・天井の二面に吸音材を使用している
Q2 サービス性能	外壁仕上げ材の補修必要間隔が30年以上 空調・給排水配管について主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し Eは不使用
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数 32.4%
LR1 エネルギー	BPI _m =0.68
LR2 資源・マテリアル	再生可能材(OAフロア)を採用
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率94%
その他	特になし

